

# 特集

## 小児外科, 小児泌尿器疾患における経皮的治療法 *Percutaneous Techniques in Pediatric Surgery and Pediatric Urology*

### 特集を企画するにあたって

小林弘幸

順天堂大学医学部 小児外科

Hiroyuki Kobayashi

Department of Pediatric Surgery, Juntendo University School of Medicine

近年、画像診断の発達と共に、小児外科、小児泌尿器科疾患のなかで、経皮的診断および治療法にたよる疾患が多くなってきている。これらの診断、治療には、小児外科医だけでなく放射線科医、小児科医の協力が不可欠である。

今回は、そのなかでも 1)胆道閉鎖症における bile lakeの経皮的治療法 2)胆道拡張症における経皮的診断、治療法 3)リンパ管腫における経皮的治療法 4)小児泌尿器疾患における経皮的診断、治療法が、最近目覚ましい発展をとげており、採り上げさせて頂いた。

胆道閉鎖症の術後長期の合併症として、bile lakeの存在は予後を決定する大切な要因であり、定期的検査(US, CT, MRI)によりいち早く発見する必要がある。この治療法に関しては、未だ定まったものがなく、今回は、積極的に独自の方法で、経皮的治療を施行されている、順天堂大学浦安病院放射線科助教授の桑鶴良平先生にお願いし、先生の方法を様々な症例から詳細に記述して頂いた。

先天性胆道拡張症における経皮的診断と治療に関しては、近年、MRCPの発達により、適応症例は減っているものの、経皮、経肝胆道造影(PTC)や経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)の意義その適応について、名古屋大学小児外科教授安藤久實先生の豊富な経験から施行されている独自の方法について詳細に述べられている。

リンパ管腫の治療法に関しては未だ議論が多く、本邦におけるOK432を使用した経皮的治療法は海外でも注目の的である。今回、この治療法のパイオニアである、京都府立医科大学小児外科講師 荻田修平先生に、豊富な経験をもとに先生の治療法について述べて頂いている。

小児泌尿器疾患における経皮的診断、治療法に関しては、画像診断技術の向上とともに経皮的治療の適応について議論が多く、東海大学泌尿器科助教授 宮北英司先生の経験より、その治療の是非について述べて頂いている。

本特集が多くの会員諸兄の日常診療においてお役に立てば幸いである。